

(解答上の注意) 解答は、すべて解答用紙に記入すること。漢字で解答する問題については、すべて楷書で記入すること。

一 次は『高等学校学習指導要領(平成三十年三月告示)』に示された、書道Ⅱの2内容 A表現(2)漢字の書について記述したものである。空欄(①)～(⑤)にあてはまる最も適切な言葉を、後の選択肢より選び記号で答えなさい。

(2) 漢字の書

漢字の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について構想し工夫すること。
- (ア) (①) 形式に応じた全体の構成
- (イ) (②) や意図に応じた(③)な表現
- イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。
- (ア) 漢字の書を構成する様々な要素
- (イ) (④)の特徴と用筆・運筆との関わり
- ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
- (ア) (④)に基づく効果的な表現
- (イ) 変化や(⑤)等による全体の構成

【選択肢】

- ア、筆勢 イ、バランス ウ、表現 エ、調和 オ、運筆 カ、用筆 キ、目的 ク、用具 ケ、伝統
- コ、用材 サ、個性的 シ、古典 ス、余白 セ、字形 ソ、感興 タ、空間 チ、線質

二次の①～⑤の図版を見て、作品名を漢字で答えなさい。また、①②⑤については作者名（伝称筆者を含む）を漢字で答えなさい。

①

②

③

④

⑤



検査Ⅱ 書道

ア 五 次の図版ア～ウを見て、(1)～(4)の問いに答えなさい。

イ

(d)

ウ

(1) 図版ア～ウの作品名を漢字で答えなさい。

(2) 図版アについて、次の問いに答えなさい。

① 傍線部 (a) のように、書かれた行に上書きする技法を何というか、答えなさい。

② 次の ( ) にはあてはまる人物名を漢字で答えなさい。

この作品は平安時代中期の女房、作家、歌人である ( ) の曾祖父、清原深養父の『深養父集』の断簡(切)である。

(3) 図版イについて、次の問いに答えなさい。

① 傍線部 (b) は三十六歌仙にも選ばれている歌人であるが、それは誰か、漢字四字で答えなさい。

② 傍線部 (c) は何と書かれているか、すべて平仮名で答えなさい。

(4) 図版ウについて、次の問いに答えなさい。

① 次の ( ) にはあてはまる字体を答えなさい。

万葉仮名(男手)から仮名(女手)へと移行する過渡期の字体、( ) で書かれている、平安時代を代表する名品である。

② 傍線部 (d) の字母をすべて漢字で答えなさい。

六 次の問いに答えなさい。

(1) 次の枠内の文は「蘭亭序」の一節である。書き下し文が「猶お之を以て懐おもいを興おこさざる能わず」となるよう返り点をつけなさい。

猶不能不以之興懷

(2) 次の図版は「書譜」の一節である。①～⑤の各文字を楷書で答えなさい。

(3) 「書譜」に見られる、紙の折り目に筆があたり、節のような筆画になった部分を何というか答えなさい。